

成長期男子の体型特性と年齢に伴う変化

千葉 桂子

(福島大)

目的 前回の報告では、近年の成長期女子の体型特性について年齢に伴う変化を中心に、その実態を捉えた。本研究では同様に成長期男子の体型特性について捉えることを試みた。さらに、成長期女子の成長様相との比較を行うことにより、性差に伴う体格および体型の差異について明らかにすることを目的とする。また、成長様相の時代的变化を把握するために1978～81年に通産省工業技術院が実施した「日本人の体格調査」の結果との若干の比較を行うものである。

方法 資料は前回と同様に、(社)人間生活工学研究センター(HQL)が1992～94年に実施した人体計測データの一部であり、11～17歳の男子2856名の25項目(高径6項目、長径5項目、周径13項目および体重)である。まず、年齢ごとに各項目別の基本統計量、指数値および相関係数を求めた。また、モリソンの関係偏差折線を求めた。さらに主成分分析を行うことにより、年齢ごとの体型特性を捉えた。同様に分析を行った女子の結果も用いて比較を行った。

結果 年齢別に求めた比胸囲については、女子は年齢の増加に伴い大きくなるが男子は13歳まで低下し、その後再び増加していくことがわかった。身長と胸囲の相関係数の年齢変化についてみると、全年齢を通じて男子が女子を上回ったが15歳で急激に低下することがわかった。さらに標準偏差の年齢変化をみると、身長については女子では11歳、男子で13歳で最大になることがわかった。主成分分析を行った結果、男子では11～13歳は第2、14歳は第3、15～17歳は第4までの各主成分が抽出された。